

学校から見える砂防えん堤の役割

～神戸市立御影北小学校～

～近畿地方整備局 六甲砂防事務所～

神戸市立御影北小学校の5年生のみなさんに、六甲山の地形や地質の特徴、過去に発生した土砂災害についての講座を行いました。また学校から見える天狗塚えん堤の役割についても説明しました。

概要

日時：平成27年2月5日（木）
10：00～12：30

場所：神戸市立御影北小学校

参加人数：約180名



○六甲山の地形の特徴と災害の歴史

約100万年前に始まった地殻変動により出来た六甲山の歴史や、風化した花こう岩で脆く崩れやすい地質、急峻な地形などを説明しました。また、六甲山山頂とふもとの街の温度差は約6℃あることなど、六甲山の自然環境について学んでいただきました。児童からは、「六甲山での土砂崩れはこれまで何回くらい起こっているのですか?」や「六甲砂防事務所はいつできたのですか?」などの質問があり、昭和になってからは昭和13年、36年、42年に大きな災害が発生したこと、昭和13年の阪神大水害後に現在の六甲砂防事務所ができ、これまでに500基以上の砂防えん堤を作ってきたことをお話しました。

○模型を使った土石流実験



模型を使った土石流実験では、土石流発生のしくみや砂防えん堤の効果を見ていただき、土石流・がけ崩れの前兆や注意点について説明しました。また、実験後には学校から見える天狗塚えん堤を望み「いつもあれが何か気になっていました。」など、児童は身近にある砂防えん堤に興味を持って見ていました。



【お問合せ先】

国土交通省 近畿地方整備局
六甲砂防事務所 調査課

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町3-13-15
TEL：078-851-0535

